
二次性徵期魔法少女ジェイムズ

コメヤ庄吉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

二次性徵期魔法少女ジェイムズ

【Zコード】

Z63810

【作者名】

コメヤ庄吉

【あらすじ】

ある見た目は女っぽいが声が野太い少年ジェイムズはある日偶然出会った背中にチャックのついた胡散臭い妖精ジョニーの手によつて魔法少女に变身させられてしまう。その日から、普通の下品な高校生だったジェイムズのブツ飛んだ日々が始まる・・・

キャラクター紹介（前書き）

この物語は実在の人物、宗教、団体、アニメやゲーム、その他やバめなものやおれが好きなものとは一切関係はありません、多分。特に主人公のセリフはP st a l 2とか言うFPSゲームのパクリではありません。

キャラクター紹介

ジェイムズ

> 1 1 3 4 4 2 — 1 3 7 1 <

このお話の主人公。性別は男、17歳。

見た目は萌えアニメみたいだが声は異常に低くてシブい。

性格は自分の欲望に忠実で良心の欠片もない、下品で卑劣で残虐な性格をしている。そのため誰もが嫌悪することを好き好んでやつたり、気に入らない奴に出会うとすぐに報復手段に出る。

が、基本的には非常に貧弱なため凶器や罠がないと何もできない。その代わり異常なまでに打たれ強いため、よく近所に住むテロリストの家や集会場から捨て身の手段で凶器をかっさらい、器用に使いこなす。

趣味は高いところからの立ショヨン。

好物はビール、あと睾丸のピクリス漬け。何の睾丸かは不明。

特技は意外にも音楽。キーボードに加えターンテーブル、ミキサーにマイクの三種の神器を巧みに操つて自作のシモネタソングを大声で歌う。

唯一の悩みは異常なまでに頻尿であること。

ジョニー

> 1 1 2 8 5 5 — 1 3 7 1 <

妖精の国から魔物達を退治するため来た見た目は小動物、中身は胡散臭い関西弁で喋る中年エロオヤジ。ジェイムズを女と間違えて変身させてしまう。

本来の目的とは別に、変身させた女の子にスケベなことをしようとしたがその企みはジェイムズによつて潰えた。

声が小鉄の声を当たった時の井上やすしにそっくりでシブいのが自慢。

痛風持ち。

何故か背中にチャックがついている。Y K製の信頼の一品。

団体・施設

ルカイダのキャンプ

ジエイムズの近所にキャンプを構えるちょっとといろんな物に不満を抱える武装集団。

近隣住民には大して迷惑をかけてはいないが、基地に侵入した者には片言で

叫びながら襲いかかる。近所の駐屯地にいる軍隊とやたら仲が悪い。オリジナルの兵器をよく製作しているが、ルカイダランチャー以外はほとんど実用レベルに達していない。

第一話「アーニャの、変身してもナーナがいたのかな」（前編）

「このお話をどう聞いても下品な表現が多かったりする気がします。

第一話「ヒーローのその後、変身してもナニがいいのかな」

俺はジェイムズだ。よく間違われるがエイムズじゃねえ。もう一度言ひ、ジェイムズだ。

よく女と間違われるが、間違いなく男だ。ナニだつてちやんとついてるぜえ？見るか？へつへつへつへ・・・本当についてんだろうな？まあそんなことはともかく聞いてくれ、俺はとんでもない事に巻き込まれちまつたんだ。

そう、アレ（ナニのことぢゃないぞ？）は田石器時代よりはもうちょっと進んだ現代の昨日の晩
俺はシャベルを買つた帰り、近道してやるひつと路地を突つ切つてたんだ。

ちょつと歩いて小さい空き地に差し掛かつた時、突然横からでつけてタ「みてえなクソッタレなバケモノが出てきやがったんだ！」

「うわっ、こりやヤバそうだ」

低ぐダンディズム溢れる声で咳いた俺はシャベル（関東じやスコッブらしいな）を構えてぶん殴つたが、どうも効かねえ。

「嘘みてええ」

その瞬間、奴は俺に長い足（でいいんだよなあ？）を伸ばして殴りかかつて来やがつた

「何しやがるこのチン ス野郎！！」

ぶつ飛ぶ俺だが人間その位じゃ死なねえもんだ、まだ生きてた。

「うげつ、痛てえーよおー・・・ダメだこりやあ」

さらにもう一発くらつた

「ちょっと待てえ、いまハラに腸を戻すからあおつーー！」

残念だが、まだモツは出でないが、気が動転してたんだ。マジだよ

「もうこれでお陀仏かあ？」

「オーウッ！殴る所考えて殴れよ・・・」

「You angry Shit-OH！」

「Shat up more all - Ouch!」

「そこまでじゃオドレコルアツ!!」

そろそろ頭がおかくなり始めた時、ドスの利いた関西弁と共にタト魔神（今名前つけた）の動きが止まつた

「ふうー、大丈夫か自分。

あんのクソッタレアホンダラボケカスに相当やられたみたいやな。ああ、喋らんでも大丈夫やで、おっちゃんが時間止めとるさかい、ええのんにしたるからな、ぐふふふふつ」

何やら小動物が関西弁で喋つてる幻覚が見える。間違いない、俺はもう死ぬ

「ほな、今回は特別サービス、おっちゃんが変身させたるさかい、好きなように戦えええねんで。タ キンチン マチチンブイ、魔法少女になあれ」

小動物は何やら著作権的にヤバそうな造形の棒を出して振り回している。マズい、末期だ。テレビで見るものがないからつて昨日变成了アニメなんて見るんじやなかつた、人生最後の風景がこんなもんだなんてよお

しかしその瞬間・・・おいおい、瞬間つて言葉何回出すんだよ。画面の前で携帯握つたガキの語彙の少なさに絶望するね・・・と思つたらまだ2回か。ああいけね、脱線しちまつたよ。言い直すぜ、その瞬間、光と共に体の痛みが消えたんだ！

そして気づいたら俺はやたら足まわりがスースーするコスプレ衣装を身に纏つていたつづけよ。

違う！俺にこんな趣味は無い！！

「なんじやこりやあ！！！」

「さあー、光の戦士として戦・・・声ふとつーーなんやのそれ！！！」

「何てこつた、なんだいこりやあ

「もしかしておのれ男か、男なんか？」

「ああ？ああ～あ、そうだよ」

「ジーザス！ 何やねん！！ わし男変身させてもーたがな！！」

「なんだあ？ チ カス野郎！」

「ああ～・・・ やつても～たあ～・・・ 一生に一度しか使えん妖精の力をこんな奴にしかも男に使つてはおつぶー！」

言い切る前にタコ魔神の一撃でぶつ飛び小動物。待て、死ぬなら俺を元に戻してからにしやがれ！

「こなくそ、時間切れか・・・まあええわ。魔法少女になつたんやからもう常人とはちやうで、ぶつ飛ばしてこいやあ！」

詳しいことは分からんが、とにかく生き返つたみたいだ。俺はリーチの短い著作権ヤバイ棒を捨て、落ちてたシャベルを拾つた

「へつへつへ

シャベルでタコ魔神をもう一度殴ると遙か彼方までかつ飛ばすことができた。すげえ、魔法だ。魔法使い リーだ

ビルの壁にぶつかるタコ魔神、くたばりかけている、今がチャンスだ

「こりやさつきやられた俺の分だ」

タコ魔神の眉間にシャベルを叩きつける

「かわいいジョニーの分だ」

ジョニーとはそこの小動物の幻覚の名前だ。今つけた。

「こいつがありやあ、怖いもん無しだぜええ」

「ああ、ワシのマジカル棒（道具屋筋で購入、￥980）が・・・

ジョニーが何か言つてるが、とにかくタコ魔神は動かなくなつた。

「まあえわ、とにかく勝つたみたいやな。ほな、変身解いとき解き方知らないんだけど」

「ああ、そうやな。こう唱えればええねん、チ タマ マキンチチンブイ、变身よ、解ける！ 今度からは自分でやりや。」

「いい具合に最低な呪文だな。お前が気に入つたぜ」

「まあとにかく、变身できる様になつたからにはこれから先、魔物を倒してもらわなかんのやけど

「いいぜ、こいつは面白そうだ・・・ へつへつへつへ

「ほな、じばらく厄介になるで」

「ああ。食事はー、その、睾丸のピクルス漬けでいいかい？」

「おー、何や分からんけど酒に合うのん？」

「ああ、ビールにぴったりだぜ」

こうして俺は魔法少女として第2の人生を送ることになったのだつた。

また見てくれよな。へつへつへつへ

おまけ：ジヨニーとラジオ

「THE BLUE HEARTSか・・・」いつらのおかげで1

6～20のときを台無しにしたよ。

ありがとう、大好きだ。」

「あんた、そー・・・いくつだ？」

第一話「ヒーリング少女、変身してもナニがいいのかな」（後書き）

次回予告

よい子のみんな、読んでくれてありがとうな、俺だ、ジョイムズだ。
まあ次回のお話はこのお話の次の日の話だ。

いやなに、大した話じゃねえ、俺は学校に行こうと思つたんだが寝
坊しちまって、またそつからブツ飛んだ目に遭わされるって話さ。
次回、「俺はオカマちゃんじゃないぜ? ただ、女装させられてるだ
けだ。」

次回もちゃんと見てくれよな!

第一話「俺はオカマぢゃんぢゃないぜ? ただ、女装せせらがれてるだけだ。」

よい子のみんな、元気か?俺だ、ジェイムズだ。

まあ今回のお話は前の話の次の日の朝からだ。

昨晚、俺は家に帰つてジョニーと睾丸のピクルス漬けを肴に酒盛りをしたおかげで起きるもつ8時半になつてた。（おつと、酒とタバコと麻薬は20になつてからだ。俺との約束だぞ? 守れるよな）

「なんてこつた、なんだいこりやあ」

俺はソファーから飛び起きて慌てて学校に行くためにマンションを出ようとしたんだ。

しかし玄関でゲロまみれになつて一升瓶を抱いて寝てるジョニーを見つけた。このまま放置するとヤバい臭いを発すると判断した聰明な俺は洗濯機に突っ込み、スイッチを入れてから出て行つたつー訳よ。

「ああああ~、ハルマゲドンでも起きたんかあ~?」「

ジョニーの声が聞こえたが気にせずに鍵を閉める。

ああ、言い忘れたが俺は17歳の高2だ。文句あつかとにかく俺は学校へ猛ダッシュだ。

「まったくクソ暑ちいなア、これじゅあ灼熱地獄にいるようなもんだぜ」

ふとこぼした時、俺は天才的なオツムで思いついた。

「ここ突つ切つてきや早いんじゃねえか?」

そこはテロリスト集団、ルカイダ（おつと、断つておくがこのお話を出てくる奴らは実際の宗教、テロ団体、Pasta12とか言うFPSゲームとは一切関係ないからな。そのところの区別はつけといてくれよ）のキャンプだが、ここを突つ切ればかなりの時間の短縮になるな。

思い立つたがなんとやらつてやつだ、別にいたいけな美少年が通るくらい何もねえだろ。

ところが奴らは俺の想像以上に心が狭いみてえだ。一人が急に騒ぎ出しゃがつた。

「アイイー！！侵入者ネ！！」

「なんだ？何だつてんだ」

「これ以上入つて来るなら撃つ田！」

「いやなに、ちょっと学校まで近道したくてね。

それよりいいもん持つてんじゃねえか、ちょっと見せろよ」

奴が持つてるでかいマシンガンがえらく気に入つた俺はちょっと見せてもらうことにしてた。

「何をするネこの侵略者！」

同報ヨ！神の名において、奴を殺すネ！！！」

「つまらねえ冗談だ」

奴が大声でわめくもんだから同じような顔をした仲間が集まって來やがつた。

「こいつら、DNA同じじゃねえのか？」

だが冷静な俺はここは穩便に済ませようと下手に出てやつた

「なんだチン　ス野郎！！ガキが通るのがそんなに嫌か？俺のケツ掘つても止めてみな！（ごめんなさい、ちょっと道を間違えただけなんです、本当ですよ）」

ちくしょう、間違えた

「死ぬネ！」

「こりやお前のお袋の分だ」

とつさに俺はナイフを片手に飛びかかつて来る構成員に鉛玉を撃ち込んだ。

生まれて初めて人を撃つちまつたんだ・・・手に伝わる衝撃・・・硝煙の臭い・・・人を撃つ手応え・・・癖になりそうだ。

奴め、安全装置外してやがつたな。

「うげつ！」

「こんなもん知った日にやあ、もう止めらんねえなあ・・・へつへつへつへつへ」

おつと、勘違いしてもちひらちゅ困るぜ、ギャグだから何があつても
誰も死なねえよ。

「かわいいジョニーの分だ」

立て続けに横にいた奴にも食らわせてやつた。

「おつと、まだ弾があるぜ？」

向かつて来るから撃つ

「宇宙モンキーのボボの分だ」

弾が無くなりかねんから持つてる銃をしまつて倒れてる構成員のを奪つた。ギャグだから服に何でも入るんだ。本当だぞ？だいたいのギャグ漫画やゲームはシャツ一枚でも色々持てるじゃねえか、あれと一緒にだよ

「ノつてきたぜえ～」

「こいつはオマケだ

「ムカついたからもう一発だ！」

「俺様が法律だ・・・へつへつへつへ」

俺はキャンプをすんずん直進した。

が、急に爆発が起きて吹き飛んだ

「うげつ！」

「奴を止める！狂つてやがる！」

「なんだチン ス野郎！ギャグだつて爆風喰らや痛てえんだぞ！」

俺は起き上がり何か構えてる奴を狙撃銃のスコープを覗きながら撃つた。

そして近づいて奴の持つてたバズーカを拾つた

「こりやあ面白そうだ・・・ん？何か書いてあるぞ？」
Q a i
d a l a u n c h e r だつて

?ひでえ一日酔いだが、この位は読めるぞ。」

「奴を殺すネ！」

「おつ、さつきの奴だ。もう起き上がつてきやがつたか。ちょうどいい、あいつに使ってみよ。」

俺はスコープを覗き込み照準を奴に合わせて何かスコープの横に目

盛りがあつたから全部溜めてから撃つてみた。

奴に弾が当たつた瞬間、ものすごい爆発が起きた！

「うわあ、こりやヤバそうだ」

言つたと同時に俺は爆発に巻き込まれてぶつ飛んだ。

「うづええつ！…ちくしょう、あの田盛りはそいつことか。今度から気を付けなきゃあな。」

「異教徒メ！覚えているネ！」

「ワタシの朝の占いの結果、異教徒に注意ダタ！」

「うげつ！痛てよー！」

その後、黒こげになつた俺はマンションの前に落ちた。

「お、お帰りい。学校半チャンやつたの？」

さすがに、今日は学校休もうと俺は思った。

今回まじめだ。よい子のみんな、また見てくれよな！

第一話「俺はオカマぢゃんじゃないぜ? ただ、女装をせりひれてるだけだ。」（後

よい子のみな、読リてくれてありがとゴザマス、ワタシが ルカイダ
ボスヨ！

次回はいよいよみなお待ちかね、ヒロイン出でくる話、ダタヨ。

そんなものより、次回も我々が活躍する話をもと出すネコの異教徒

!!

次回、「ヒロイン登場！」

なんだかタマがうずきマス

とてもいいことネ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6381o/>

二次性徵期魔法少女ジェイムズ

2010年11月14日18時46分発行